

令和4年度
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	06	124130	男女共同参画推進事業費	
総合計画	分野	04	地域づくり	政策	02 参画・協働のまちづくり	
	施策	03	男女共同参画の浸透			
目的	男女共同参画社会の実現のため意識啓発事業の実施のほか、女性団体の活動を支援する。					
対象	市民					
意図	男女が社会の対等なパートナーとしてまちづくり等に参画できるよう男女共同参画の浸透を図る。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○意識啓発講座の開催 527千円 学習講座、DV防止セミナー、ワーク・ライフ・バランスセミナー、LGBTセミナー、男女共同参画推進員の資質向上に向けた研修等の開催 17回 ○男女共同参画審議会の開催 64千円 男女共同参画基本計画に関する事項及び施策の基本的事項・重要事項の調査審議 2回 ○花巻市地域婦人団体協議会への補助 700千円 男女共同参画社会の実現に向けた活動を推進する団体及び人材の育成 ○「第3次花巻市男女共同参画基本計画」策定に向けたアンケート（新規）0千円（R5年度実施） 					
市民参画の有無	男女共同参画基本計画は参画対象					
市民協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input type="checkbox"/> 事業協力・協定	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input type="checkbox"/> 補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	講座・フォーラム等の開催回数	回	計画	13.00	15.00	
			実績	9.00	17.00	
2	広報紙等による情報の提供回数	回	計画	15.00	15.00	
			実績	22.00	18.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	職場や学校・地域など身のまわりで男女の平等が図られていると思う市民の割合【まちづくり市民アンケート】	%	目標	55.00	57.50	
			実績	41.20	41.20	
2	審議会委員等に占める女性の割合	%	目標	37.50	38.80	
			実績	28.10	30.80	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり	<input type="checkbox"/> 目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>指標1については、市民意識調査によると男女平等が図られていると思う割合は男性52.3%であるのに対し、女性は32.2%と低く、年代別に見ると10代から20代までは高いがそれ以降は低い傾向にあることから、学童期からの男女平等に対する意識が広がってきていると考えられる。一方、特に農林水産業、自営業、パート、家事などの職業では男女平等が図られていると思う割合が低い傾向にあるほか、地域では、固定的な性別役割分担や無意識の思い込みの解消が進まないことにより、地域活動の意思決定の場に女性が参画できないことなどが、男女平等の意識に繋がらない要因の一つと考えられる。</p> <p>指標2については、令和3年度と比べて割合は増えたものの目標値には達していない状況であり、審議会委員への就任を条例等で規定している職、登用する専門分野、団体のポストに就任している女性の割合が少ないことが要因と考えられる。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	花巻市男女共同参画推進条例の規定により、市は基本理念のっとり、男女共同参画の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有すると規定されている。
	<input type="checkbox"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	男女共同参画審議会、男女共同参画推進幹事会における意見や、講座等参加者のアンケートなどを基に、講座内容や開催手法を工夫するなど事業を精査することにより、更なる成果の向上が期待できる。
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費は、審議会委員、男女共同参画推進員への謝礼など事業を推進するための必要最小限の経費であり削減の余地はない。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	男女共同参画にかかる事業は、すべての市民が対象であるため受益機会と費用負担の不公平はない。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
総合評価	<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある	
	<input type="checkbox"/> 適正である	
	今年度の振り返り	男女共同参画に係る講座等の開催及び広報紙等による情報提供の実施により、男女共同参画の浸透を図った。新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたことから、講座等の開催は令和3年度と比べて回数を増やしている。開催方法についても、より多くの市民に参加いただけるよう参集型だけでなく、オンラインも併用して事業を実施した。令和4年度は男女共同参画推進員会議の回数を増やし、推進員の役割の再認識や今後の活動についての検討を行っており、市内店舗でのパープルリボン配布活動など、新規の活動につながった。
次年度に向けて	男女共同参画推進事業については、引き続き市民が参加しやすい方法を検討しながら、講座等の実施を通じてジェンダー平等や多様な性への理解促進など男女共同参画に係る課題に取り組む。花巻市第2次男女共同参画基本計画の最終年度であることから、これまでの取組の成果と課題の評価を踏まえ、第3次花巻市男女共同参画基本計画を策定する。また、自治体が同性カップルの関係を証明するパートナーシップ制度については、条例による導入を目指し、男女共同参画審議会で意見を伺うなど、検討を進める。	